

伊那市議会 平成26年度の政務活動報告

平成26年度の政務活動費の概算と、その用途について報告します。

政務活動費は、地方自治法の規定に基づき、議員の調査研究その他の活動に資するために必要な経費の一部として、議会の会派に対して交付されるもので、伊那市では条例に基づき、会派の所属議員数に年額12万円を乗じた金額が交付されます。各会派の経理責任者は、毎年度、政務活動費の収支の状況を議長に報告し、残金がある場合は市に返還しています。

(単位 円)

会派(人数)	活動費総額 (12万円×人数)	概算(見込み)支出額の内訳			残金 (返還額)
		調査研究費 (視察研修)	研修費 (研修開催)	広報費	
新政クラブ(8人)	960,000	960,000			0
平成クラブ(4人)	480,000	398,336			81,664
政和会(4人)	480,000		124,220		355,780
日本共産党(3人)	360,000			360,000	0
公明党(2人)	240,000	169,378			70,622

新政クラブ

黒河内浩、竹中則子、宮島良夫、伊藤泰雄、飯島進、唐澤千明、白鳥敏明、野口輝雄

新政クラブは、10月下旬に若者定住対策を中心に視察を実施しました。

●岩手県一関市

「新規高卒者のふるさと就職支援事業・市民と議会の懇談会」を視察。急速な人口減少に危機感を抱き、行政で地元就職する高卒者に対して、応分の援助をしている施策は新しい取り組みで、注目するところです。

「市民と議会の懇談会」は、伊那市が27年度に初めて開催する予定の「市民と議会との意見交換会」に大変参考になりました。

●秋田県大湯村

「人口増対策に関する一般的な取組み」で、若者定住対策や農業分野における「ターンやUターン対策を視察してきました。

伊那市でも、農林業における若者定住対策を促進しております。

●宮城県気仙沼市

東日本大震災からの復興状況や防災面における課題・問題点について説明を聞き、現地を視察

してきました。

重機があわただしく動き、土砂を運ぶトラックが行きかきませんが、予想したほど復興が進んでいない状況でした。

伊那市からの派遣職員に会い、激励をしましたが、現地のために尽力している姿勢が伝わり、私たちも誇らしく思いました。

平成クラブ

平岩國幸、橋爪重利、丸山敏郎、中山彰博

平成クラブは、10月下旬に埼玉県川越市、群馬県富岡市の視察を実施しました。

●埼玉県川越市

歴史的建造物を生かしたまちづくりを視察しました。川越の街並みは、明治の川越の

大火を契機に整備され、当時の時代を考えると、現代の交通量に十分対応できる位に道幅を広く取り、厚い土壁を施した街並みは、防火建築として平成の時代にも十分通用するものです。

裏小路に開店している駄菓子屋横丁は小資本で開店でき、若い人たちがにぎわっていました。

●群馬県富岡市

世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」を視察しました。平成26年4月に世界遺産に登録されたばかりで、見学・視察の受入れ態勢が十分に構築されていない状況でした。

富岡製糸場は、4資産(製糸技術革新・蚕種の直輸出・養蚕教育・蚕種貯蔵技術の革新)で構成された遺産でした。

各地に設立された製糸工場のリーダー養成を目的とした施設

で、当時としては良く整備されておりました。

古い街並みを利用した観光、小資本での開店、ジオパーク、エコパークを生かした観光施策の参考となりました。

政和会

唐澤稔、若林敏明、八木択真、柴満喜夫

政和会は11月、中心市街地活性化をテーマに、市民参加型の街づくり勉強会を開催。若者を中心に市民ら約90人が参加し、質疑討論が予定時間を大幅にオーバーするなど、盛り上がりを見せました。

勉強会は、政務活動費を市民に開かれた活動の場に活用することを目的に企画。近年、「おしゃれな街」「環境先進都市」として注目を集めている米・オレゴン州ポートランド市の事例を参考に、同市についての著書もある吹田良平氏を講師として開催しました。

講演で吹田氏はポートランドについて「新旧の建物が融合し、ギャラリーや飲食店が多い」「地元発祥の店を応援する文化があ

る▼市民が地元への誇りを持っている▼ファーマーズマーケットなど民間が取り組むイベントが多数開催されている▼市が自治会の会議にファシリテーター役を派遣するなど、住民自治の促進に取り組んでいる、などの特徴を紹介。伊那市民の取り組みについては、「生活の質の高さに誇りを持ち、積極的に新しい試みを仕掛けて」とエールを寄せてくれました。

質疑応答では、「伊那市では住む場所が郊外に移動している。ポートランドではどうか」「伊那でもイベントや楽しい店が増え、雰囲気としてポートランドは全く遠くない」など、活発な意見が交わられました。

勉強会を通して見えてきた課題は、住民が行政依存から脱却し、地域を誇りに思い、地域発の店や企業を大切にしている価値観を高めることなど、多岐にわたります。今後、行政・民間双方に提案し、地域づくりに生かします。

日本共産党

柳川広美、前澤啓子、飯島光豊

市民の皆さんから、共産党議員団の活動を全市民に分かるよ

うに広報に力を入れてほしいとご要望を頂き、カラーの伊那市議員団だよりを発行しました。

定例議会のたびに発行し、できるだけたくさんの方に届けられるよう努力しています。

●集团的自衛権反対は6名

6月議会報告(7月号)のトップ記事は、集团的自衛権の行使に対する請願・陳情について取り上げました。他に難病福祉金の引き下げ、保育園民営化などについて掲載しました。

●補正予算の修正動議を提出

9月議会報告(11月号)では、各区の区長さん方から要望の強い道路・水路の予算を増額する修正動議を提出したことを取りあげました。動議は賛成少数で否決されました。

また、各委員会での決算審査の様子や集团的自衛権行使容認の閣議決定反対の請願・陳情について賛成反対の議員名を掲載。賛成議員は9名になりましたが、否決されました。

●国保値上げ中止を訴え

12月議会報告(2月号)では、一般会計からの繰り入れで、国保の大幅値上げの中止を訴える記事を掲載しました。また、上伊那広域連合のごみ処理施設のガス化炉を中止し、

安価で技術も確立しているストーカー炉への機種の変更を提案し、税金の有効活用を求めました。

公明党

飯島尚幸、前田久

公明党の政務活動は、第12回地方議会議員研修会、新宿区の婚活推進状況について協議、アメニティーフォーラム19への参加などに取り組みました。

●第12回地方議会議員研修会(10月下旬 東京都)

超高齢社会に入り、多様な住民ニーズを活かしたまちづくり戦略は何か。この視点から「高齢になっても安心して暮らせる地域の仕組みづくり」(沼尾波子・日本大学教授)、「湖南市 自然エネルギーを活用したまちづくり」(池本美和・滋賀県湖南市地域エネルギー課主幹)、「住宅政策から地域居住政策へ」(中島明子・和洋女子大学教授)の講義を受けました。

いずれの内容も、現地・現場からの具体的な事実と工夫、英知を結集したレポートと解説で、大変参考になりました。

●新宿区の婚活推進について(10月下旬 新宿区役所)

友好都市・新宿区と婚活をめぐる交流は4年前から継続しており、本年は担当の子ども家庭部男女共同参画課と意見交換を深めました。

新宿区主催の「若者の集い」は大好評で定着しており、この機会に伊那市からの参加や、伊那市への就職、居住を視野に入れた出会いの場づくりなどを協議しました。

●アメニティーフォーラム19(27年2月上旬 滋賀県大津市)

心身の障害がハンディにならない地域社会の実現はどうあるべきか。一貫した障がい者のための行政サービスのあり方や現状の課題などを学びました。

1,400人参加、42講座、たいへんボリュームのある3日間でした。

研修・フォーラムの資料